# 0ATGC39　English Discussion and Presentation on Medical Sciences II

2.0 単位, 1・2 年次, 秋AB 水1,2
入江 賢児, 川口 敦史, 高橋 智, 船越 祐司, 水野 智亮, 須田 恭之

## 授業概要

テレビ会議システムを使った国立台湾大学、京都大学との交流授業(分子細胞生物学に関する英語による講義と討論、英語による論文紹介と討論)を通して、生命科学の知識、および英語によるサイエンスコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身につける。IIでは、がん生物学をトピックとする。
(1) がん生物学、(2) RNA制御とその癌との関係、(3) 腫瘍ウイルス学、(4) テロメア生物学、(5) ゲノム不安定性のメカニズムとその癌との関連性、(6) がんのエピジェネティクス、(7) 癌はどのように成長しますか?、(8) 腫瘍の微小環境、(9) 癌細胞におけるシグナル伝達、(10) がんゲノミクス、(11) 癌研究における動物モデル

## 備考

0AVC201と同一。
英語で授業。
対面(オンライン併用型)

## 授業方法

演習

## 学位プログラム・コンピテンスとの関係

国際性、突破力

## 授業の到達目標（学修成果）

生命科学の知識、および英語によるサイエンスコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身につける。

## キーワード

生命科学, がん生物学, 英語, コミュニケーション能力, プレゼンテーション能力

## 授業計画

トピック:がん生物学
1. がん生物学
2. RNA調節とがんの関係
3. 腫瘍ウイルス学
4. テロメアの生物学
5. ゲノム不安定性のメカニズムとそのがん関係
6. がんエピジェネティクス

7. がんはどのように成長するか?
8. 腫瘍の微小環境
9. がん細胞におけるシグナル伝達
10.がんゲノミクス
11.がん研究における動物モデル

**履修条件**

**成績評価方法**

質問状況、および英語による発表(Paper presentation by students I, II, III)により評価する。
A＋（90-100）は、到達目標に達し、きわめて優秀な学修成果をあげた受講生に与えられる。
A（80-89）は、到達目標に達し、優秀な学修成果をあげた受講生に与えられる。
B（70-79）は、到達目標に達した受講生に与えられる。
C（60-69）　は、到達目標に最低限のレベルで達した受講生に与えられる。
D(59点以下)　は、到達目標に達していない受講生に与えられる。

**学修時間の割り当て及び授業外における学修方法**

授業内容の資料を事前に配布するので、予習して授業に臨むこと（20%）。講義、講義の後の論文発表では積極的に質問・討論をすること（30%）。講義後に出席表を提出すること（20%）。論文発表はグループ学習により学び、コースで1度以上は発表する（30%）。グループ分けはオリエンテーションで説明します。

**教材・参考文献・配付資料等**

がんの生物学

**オフィスアワー等（連絡先含む）**

**その他（受講生にのぞむことや受講上の注意点等）**

**他の授業科目との関連**

**ティーチングフェロー（TF）・ティーチングアシスタント（TA）**